

記録的短時間大雨情報の改善

～令和3年度防災気象情報の改善から～

令和3年6月29日
札幌管区気象台

https://www.jma.go.jp/jma/press/2105/24a/20210524_tsutaekatakaizen.html

国土交通省
気象庁
Japan Meteorological Agency

HOME | 防災情報 | 各種データ・資料 | 地域の情報 | 知識・解説 | 各種申請・ご案内

HOME > 各種申請・ご案内 > 報道発表資料 > 令和3年報道発表資料 > 「自らの命は自らが守る」社会の構築に向けて～防災気象情報の伝え方改善～

「自らの命は自らが守る」社会の構築に向けて～防災気象情報の伝え方改善～

報道発表日
令和3年5月24日

概要
出水期を迎えるにあたり、住民の皆様への適切な避難の判断・行動につながるよう、防災気象情報の伝え方を改善します。

本文
住民の皆様への適切な避難の判断・行動につながるよう、防災気象情報の伝え方を改善するため、有識者で構成される「防災気象情報の伝え方に関する検討会」や「水害・土砂災害に関する防災用語改善検討会」において、課題や改善策を検討いただき、改善策と推進すべき取組がとりまとめられました。

気象庁と水管理・国土保全局では、これらのとりまとめを踏まえ、防災気象情報が、避難をはじめとする防災対策により一層役立つよう、今出水期から別紙「防災気象情報の伝え方改善に向けた取組について」の通り取組を進めていきます。

【主な取組】

- ・「線状降水帯」というキーワードを使った顕著な大雨への注意喚起を開始
- ・台風等が接近した際に、どのような災害が想定されるのか等がより詳細に伝わるよう呼びかけ方を改善
- ・国が管理する河川の洪水予報における水位や流量の予測情報の提供について、従来の3時間先から6時間先までに延長 等

これらの取組を通して、住民の皆様への適切な避難の判断・行動につながるような情報発信、リスクコミュニケーションにつとめていきます。

問合せ先
大気海洋部業務課 小寺・松田
電話03-6758-3900(内線4121、4122) FAX 03-3434-9047
水管理・国土保全局 河川計画課 河川情報企画室 大坪、向山
代表：03-5253-8111(内線：35392、35394)
直通：03-5253-8446、FAX：03-5253-1602

資料全文

- ▶ [「自らの命は自らが守る」社会の構築に向けて～防災気象情報の伝え方改善～ \[PDF形式:86KB\]](#)
- ▶ [\(別紙1\)防災気象情報の伝え方改善に向けた取組について \[PDF形式:120KB\]](#)
- ▶ [\(参考資料\) 今年の出水期から実施する各取組について \[PDF形式:4,304KB\]](#)

検討会について(資料掲載場所)

- ▶ [防災気象情報の伝え方に関する検討会](#)

このサイトには、Adobe社 Adobe Acrobat Reader DCが必要なページがあります。
お持ちでない方は左のアイコンよりダウンロードをお願いします。

いのちとくらしをまもる
防災 減災

Press Release

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

【同時発表：国土交通省記者クラブ】

令和3年5月24日
気象庁 大気海洋部 業務課
水管理・国土保全局 河川計画課

「自らの命は自らが守る」社会の構築に向けて ～防災気象情報の伝え方を改善～

出水期を迎えるにあたり、住民の皆様への適切な避難の判断・行動につながるよう、防災気象情報の伝え方を改善します。

住民の皆様への適切な避難の判断・行動につながるよう、防災気象情報の伝え方を改善するため、有識者で構成される「防災気象情報の伝え方に関する検討会」や「水害・土砂災害に関する防災用語改善検討会」において、課題や改善策を検討いただき、改善策と推進すべき取組がとりまとめられました。

気象庁と水管理・国土保全局では、これらのとりまとめを踏まえ、防災気象情報が、避難をはじめとする防災対策により一層役立つよう、今出水期から別紙「防災気象情報の伝え方改善に向けた取組について」の通り取組を進めていきます。

【主な取組】

- ・「線状降水帯」というキーワードを使った顕著な大雨への注意喚起を開始
- ・台風等が接近した際に、どのような災害が想定されるのか等がより詳細に伝わるよう呼びかけ方を改善
- ・国が管理する河川の洪水予報における水位や流量の予測情報の提供について、従来の3時間先から6時間先までに延長 等

これらの取組を通して、住民の皆様への適切な避難の判断・行動につながるような情報発信、リスクコミュニケーションにつとめていきます。

【問合せ先】
気象庁 大気海洋部 業務課 小寺、松田
電話 03-6758-3900 (内線 4121、4122) FAX 03-3434-9047
水管理・国土保全局 河川計画課 河川情報企画室 大坪、向山
代表：03-5253-8111 (内線：35392、35394)
直通：03-5253-8446、FAX：03-5253-1602

数年に1度程度しか発生しないような1時間雨量を 観測または解析した場合に発表します。

○数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を、観測(地上の雨量計による観測)したり、解析(気象レーダーと地上の雨量計を組み合わせた分析：解析雨量)したりしたときに、発表します。

○大雨警報発表中に、現在の降雨がその地域にとって土砂災害や浸水害の発生につながるような、稀にしか観測しない雨量であることをお知らせするために発表するものです。

発表例

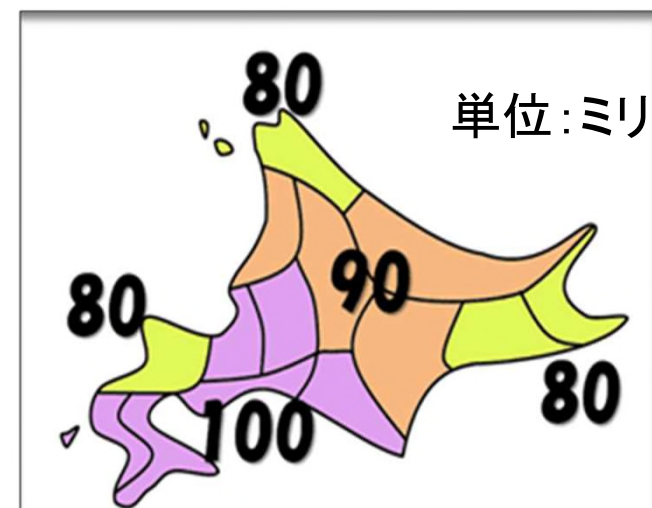
石狩・空知・後志地方記録的短時間大雨情報 第1号
令和元年9月11日04時19分 気象庁発表

4時北海道で記録的短時間大雨
千歳市支笏湖付近で約100ミリ

尋常ではない雨が実際に降った。
⇒災害の危険が高まっている場所を
キキクル（危険度分布）で確認

<https://www.jma.go.jp/bosai/information/>

発表基準（1時間雨量）



1時間80ミリ以上の「猛烈な雨」とは
↓
息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。

記録的短時間大雨情報の改善

令和3年
6月8日～

- 記録的短時間大雨情報は、大雨警報発表中に、現在の降雨がその地域にとって土砂災害や浸水害、中小河川の洪水災害の発生につながるような、稀にしか観測しない雨量であることを伝えることで、どこで災害発生の危険度が高まっているかを「キキクル」で確認し、自主的な安全確保の判断を促すもの。
- 記録的短時間大雨情報を、当該市町村が警戒レベル4相当の状況となっている場合にのみ発表することで、災害発生の危険度が急激に上昇し、速やかな安全確保が必要な状況となっていることを適切に伝えられるように改善。

これまで

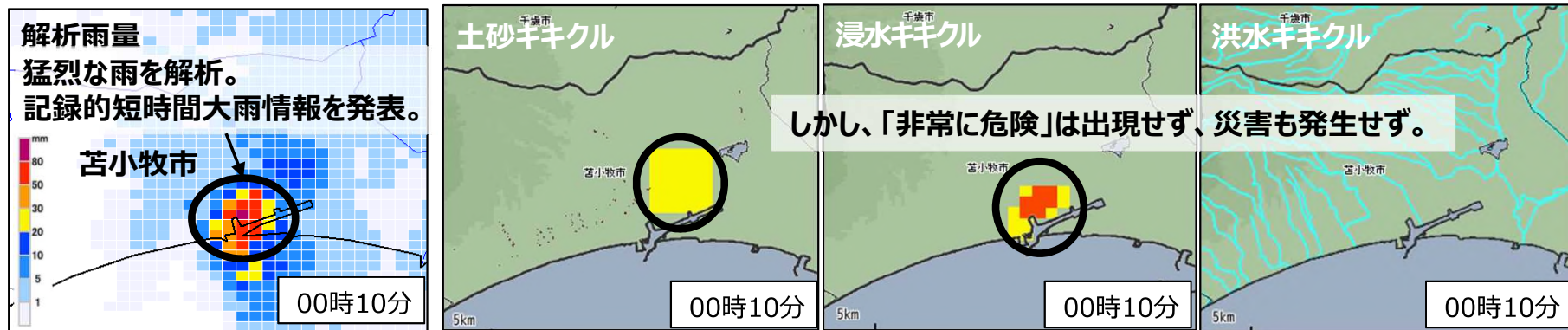
大雨警報を発表中に、記録的短時間大雨情報の基準に到達したときに発表。

災害発生と結びつきが強い情報に改善

改善後

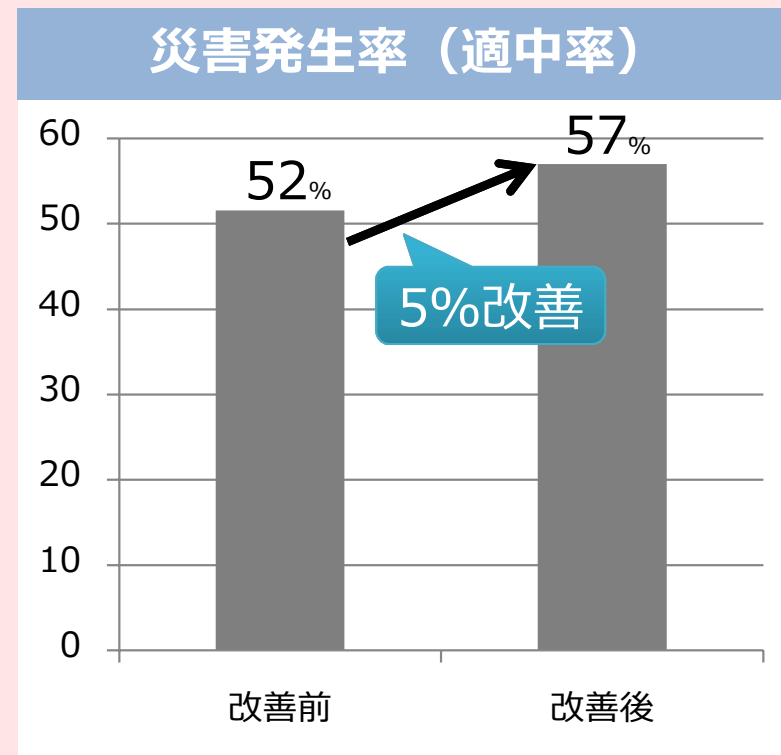
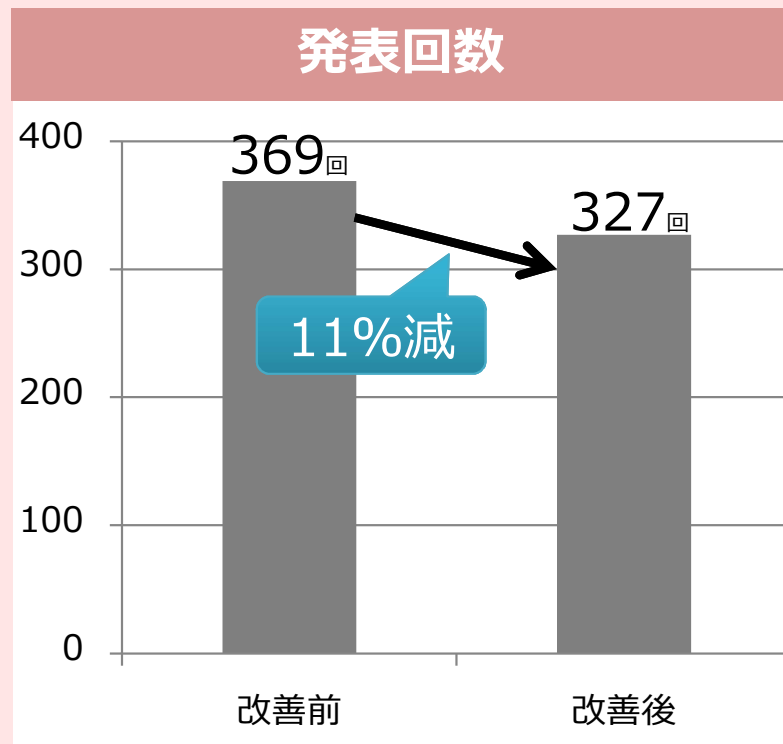
キキクルで「非常に危険」(警戒レベル4相当)以上が出現し、記録的短時間大雨情報の基準に到達したときにのみ発表する。

令和元年11月12日の胆振地方の例



「危険度分布」の危険度を発表条件に加えることで、災害発生の危険度が急激に上昇し、速やかな安全確保が必要な状況となっていることが伝わるように改善。

■ 記録的短時間大雨情報の改善効果（統計的検証）



※ 「改善前」は、大雨警報を発表中に、記録的短時間大雨情報の基準を満たした場合における値。「改善後」は、大雨警報の発表に加え、キキクル（危険度分布）で「非常に危険」（警戒レベル4相当）以上が出現し、記録的短時間大雨情報の基準を満たした場合における値。
※ H29年7月～R02年7月に発表した記録的短時間大雨情報について、何らかの災害（土砂災害・浸水害・洪水災害）が発生した市町村。危険度は、発表から30分以内における市町村内の最大の危険度。洪水は流路のみ。




本事例においては、**重大な災害（床上浸水、命に関わる土砂災害※）を見逃すことなく、改善後は改善前に比べ、発表回数を11%程度減らしつつ、災害発生率（適中率）を5%改善**することができた。

※ 土砂災害警戒情報が対象とする集中的に発生する急傾斜地崩壊及び土石流。

■ 参考 予報用語 雨の強さと降り方

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/amekaze/amekaze_ura.png

1時間雨量 (mm)	雨の強さ(予報用語) 人の感じるイメージ	人への影響	屋外の様子	災害発生状況
10~20	やや強い雨 ザーザーと降る。	地面からの跳ね返りで足元がぬれる。 	地面一面に水たまりができる。 	この程度の雨でも長く続く時は注意が必要。
20~30	強い雨 どしゃ降り。	傘をさしていてもぬれる。 	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模の崖崩れが始まる。 	
30~50	激しい雨 バケツをひっくり返したように降る。	道路が川のようになる。 	山崩れ・崖崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。都市では下水管から雨水があふれる。 	
50~80	非常に激しい雨 滝のように降る。(ゴーゴーと降り続く)	傘は全く役に立たなくなる。 	都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある。マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。 	
80~	猛烈な雨 息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。	雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、嚴重な警戒が必要。		

台風・豪雨時に備えてハザードマップと一緒に「避難行動判定フロー」を確認しましょう

平時に確認

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自宅の災害リスクととるべき行動を確認しましょう。

避難行動判定フロー

あなたがとるべき避難行動は？ **必ず取組みましょう**

ハザードマップ*で自分の家がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう。

*ハザードマップは浸水や土砂災害が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。着色されていないところでも災害が起こる可能性があります。

家がある場所に色が塗られていますか？

いいえ

色が塗られていなくても、周り比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、市区町村からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください。

はい

災害の危険があるので、原則として並、立退き避難（自宅の外に避難）が必要です。

例外

*浸水の危険があっても、
①洪水により家屋が倒壊又は崩落してしまうおそれの高い区域の外側である
②浸水する深さよりも高いところにいる
③浸水しても水がひくまで我慢できる、水・食糧などの備えが十分にある場合は屋内安全確保（自宅に留まり安全確保すること）も可能です。

解説は裏面をご確認ください

ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか？

いいえ

はい

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

警戒レベル3高齢者等避難が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう（日頃から相談しておきましょう）

いいえ

警戒レベル3高齢者等避難が出たら、市区町村が指定している指定緊急避難場所に避難しましょう

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

警戒レベル4避難指示が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう（日頃から相談しておきましょう）

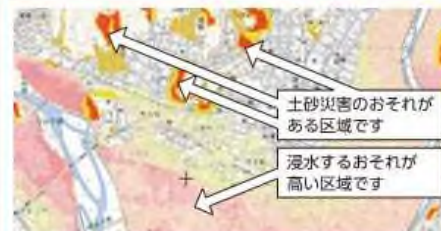
いいえ

警戒レベル4避難指示が出たら、市区町村が指定している指定緊急避難場所に避難しましょう

避難行動判定フローの参考情報

ハザードマップの見方

必ず確認してください



水害		土砂災害	
5m~10m未満 (1階上-1階下浸水)	洪水浸水想定区域 (浸水深)	土砂災害警戒区域 土砂災害のおそれがある区域	土砂災害特別警戒区域 建築物に損壊が生じ、住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがある区域
2m~5m未満 (2階上-1階下浸水)			
0.5m~2m未満 (1階上-1階下浸水)			
0.05m未満 (1階下浸水)			

*ハザードマップの着色や凡例は市町村によって異なる場合があります。

ハザードマップを印刷

検索



ハザードマップの見方

もっと詳しく知りたい人向け

次の3つが確認できれば浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です

① 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない

(入っていると…)



流速が速いため、木造家屋は倒壊するおそれがあります

地面が削られ家屋は建物ごと崩落するおそれがあります

② 浸水深より居室は高い



③ 水がひくまで我慢でき、水・食糧などの備えが十分

(十分じゃないと…) 水、食糧、薬等の確保が困難になるほか、電気、ガス、水道、トイレ等の使用ができなくなるおそれがあります

*①家屋倒壊等氾濫想定区域や②水がひくまでの時間（浸水継続時間）はハザードマップに記載がない場合がありますので、お住まいの市町村へお問い合わせください。なお、重ねるハザードマップには①及び②の記載はありません。

！警戒レベル3や警戒レベル4が出たら、危険な場所から避難しましょう。

！「避難」とは「難」を「避」けることです。安全な場所にいる人は、避難場所に行く必要はありません。

！避難先は小中学校・公民館だけではありません。安全な親戚・知人宅やホテル・旅館に避難することも考えてみましょう。

*緊急時に身を寄せる避難先は、市町村が指定する「指定緊急避難場所」や、安全な親戚・知人宅など様々です。普段からどこに避難するかを決めておきましょう。

*「指定緊急避難場所」は、災害の種類ごとに安全な場所が指定されています。（小中学校、公民館など）

*災害が落ち着いた後に、自宅が被災し、帰宅できない場合には、しばらく避難生活を送るため、「指定避難所」に行きましょう。

わからないことがありましたらお住まいの市区町村にお問い合わせください。

(参考) 内閣府防災ホームページ「避難情報に関するガイドラインの改定(令和3年度)」
http://www.bousai.go.jp/oukyu/hinanjouhou/r3_hinanjouhou_guideline

台風・豪雨時に「避難情報のポイント」を確認し避難しましょう

緊急時に確認

避難情報のポイント

!.....必ず確認してください.....!

市区町村から出される避難情報(警戒レベル)

- ① 避難とは難を避けること、つまり安全を確保することです。安全な場所にいる人は、避難場所に行く必要はありません。
- ② 危険な場所から警戒レベル3で(高齢者等は避難)、警戒レベル4で(全員避難^{※1})です。
※1 警戒レベル4「全員避難」は、高齢者等に限らず全員が危険な場所から避難するタイミングです。



警戒レベル4 避難指示で危険な場所から避難です

① 警戒レベル5はすでに災害が発生・切迫している状況です。

- ・警戒レベル5は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。
- ・警戒レベル5緊急安全確保の発令を待ってははいけません!
- ・ただし、警戒レベル5は、市区町村が災害の発生・切迫を把握できた場合に、可能な範囲で発令される情報であり、必ず発令される情報ではありません。

① 警戒レベル4は避難指示に一本化されました。

- ・避難のタイミングを明確にするため、令和3年の災対法改正以前の警戒レベル4避難勧告と避難指示(緊急)は「避難指示」に一本化され、避難指示は令和3年の災対法改正以前の避難勧告のタイミングで発令されます。
- ・警戒レベル4避難指示は、立退き避難に必要な時間や日没時間等を考慮して発令される情報で、このタイミングで危険な場所から避難する必要があります。

① 警戒レベル3は高齢者だけの情報ではありません。

- ・「高齢者等」は障害のある人や避難を支援する者も含まれています。
- ・さらに、高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難するタイミングです。

① 豪雨時の屋外避難は危険です。車の移動も控えましょう。

避難情報のポイント解説 もっと詳しく知りたい人向け

国土交通省・気象庁・都道府県から出される河川水位や雨の情報(警戒レベル相当情報)

■ キキクル(危険度分布)で、お住まいの地域の状況を確認しましょう

気象庁から市区町村単位の警戒レベル相当情報[※]が出されたら、お住まいの地域の状況が詳細にわかる情報「キキクル(危険度分布)」を確認してください。紫色は危険度が高いことを示しています。

住所を登録しておけば、お住まいの地域が危険になったら自動的にスマートフォンに通知される「危険度分布通知サービス」もありますので、ご活用ください。

キキクル 検索



紫：崖・渓流の近くは危険

紫：低地は危険

紫：河川沿いは危険

※市区町村単位で発表される情報には、大雨特別警報、土砂災害警戒情報、大雨警報などがあります。

■ 市区町村が出す警戒レベル3又は警戒レベル4(避難情報)で必ず避難しましょう
気象庁などから出る河川水位や雨の情報を参考に自主的に早めの避難をしましょう

避難情報等 (警戒レベル)			河川水位や雨の情報 (警戒レベル相当情報)	
警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	避難情報等	河川水位や雨の情報 (警戒レベル相当情報)
5	災害発生又は切迫	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保	5 氾濫発生情報 大雨特別警報(土砂災害)
~~~~~ <警戒レベル4までに必ず避難!> ~~~~~				
4	災害のおそれ高い	危険な場所から 全員避難	避難指示	4 氾濫危険情報 土砂災害警戒情報
3	災害のおそれあり	危険な場所から 高齢者等は避難	高齢者等避難	3 氾濫警戒情報 洪水警報 大雨警報
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水注意報	2 氾濫注意情報
1	気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期避難情報	1

市区町村長は、河川や雨の情報(警戒レベル相当情報)のほか、地域の土地利用や災害実績なども踏まえ総合的に避難情報等(警戒レベル)の発令判断をすることから、警戒レベルと警戒レベル相当情報が出るタイミングや対象地域は必ずしも一致しません。

わからないことがありましたらお住まいの市区町村にお問い合わせください。

(参考)内閣府防災ホームページ「避難情報に関するガイドラインの改定(令和3年度)」  
[http://www.bousai.go.jp/oukyu/hinanjouhou/r3_hinanjouhou_guideline](http://www.bousai.go.jp/oukyu/hinanjouhou/r3_hinanjouhou_guideline)